

平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒それぞれの豊かな個性の伸長と人間性を尊重し、志を高く、時代を切り拓く人材を育む学校

～ 「茨西 PRIDE」のもと、茨西につながるすべての人が「TEAM 茨西」として、生徒それぞれの「志をカタチに」する ～

- 【生徒に育みたい力】 ◇ 確かな学力を基礎に、高い志を持ち、グローバル社会を切り拓く力
◇ 生徒が自身に誇りを持ち、社会人として自律できる力
◇ 母校愛を醸成し、地域そして世界の人とつながる力
- 【教職員に求める力】 ◇ 同僚性を高め、生徒と向き合う力



2 中期的目標

1. “確かな学力”の育成

(1) 生徒の学習支援の強化

- ア 授業規律の一層の徹底
イ 学習支援体制の構築と教育産業の有効利用
ウ 自学自習のハード&ソフトの整備

(2) グローバル社会への対応

- ア EFHS の取り組みを引き継ぐ、英語教育の一層の推進

(3) 授業力向上

- ア 授業評価の PDCA サイクルによる授業改善と教員相互が切磋琢磨できる環境づくり
イ アクティブ・ラーニング (AL) 及び ICT を活用した授業の推進

※ 学校教育自己診断 (保護者版)、授業のわかりやすさに係る肯定回答率、2020 年度 60%以上をめざす。(H28 : 49%・H29 : 52%)

※ 学校教育自己診断 (教職員版)、AL へ取り組む教職員の割合、2020 年度 90%以上をめざす。(H29 : 88%)

2. 高い志を持ち “社会を切り拓く力”の育成 ▷ 「志をカタチに」

(1) 生徒の将来を見据えたキャリアサポート

- ア 全方位の進路マップによる、早期の生徒・保護者の進路意識の醸成
イ 高大連携やフィールドワーク等によるキャリア意識の向上

※ 第3学年4月の進路希望調査 (4年制大学・短期大学進学者) の実現率、2020 年度 80%以上をめざす。(H28 : 71%・H29 : 76%)

※ 2020 年度、4年制大学への進学率 60%をめざす。(H28 : 43%・H29 : 48%)

3. 生徒が自身に誇りを持って、将来社会人としての “自律する力”を育む ▷ 「茨西 PRIDE」の涵養

(1) 自律を促す教育活動の展開

- ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上

(2) 安全安心な学校づくり

- ア 人権教育委員会及び生活指導部を中心とした豊かな人権感覚の醸成
イ 教育相談委員会を中心とした教育相談活動の活性化
ウ 交通安全教育や防災教育等を通じた危機管理能力の向上と共助に係わる意識の涵養

※ 生徒・保護者向け学校教育自己診断「命の大切さ・豊かな心・人権感覚の醸成」に係わる質問の肯定回答率 70%以上をめざす。

(両者の平均 H28 : 62%・H29 : 68%)

4. 学校・家庭・地域・世界と “つながる力”の育成 ▷ 「TEAM 茨西」の形成

(1) 各種 HR 活動・生徒会活動・部活動や国際交流行事を通して多種多様な、つながる力を養う。

- ア HR 活動・生徒会活動及び部活動の活性化
イ 国際交流事業の推進

(2) 中高及び小高連携の推進と地域連携の強化

- ア 中高連絡会・地域交流協議会等により連携を強化し、地域のボランティア活動を通じ地域貢献を推進する。
イ 卒業生・保護者・地域の教育に係る人材等を発掘し協力体制を構築する。

(3) 家庭との連携及び PTA 活動の活性化

- ア 家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行う。
イ PTA 活動の一層の活性化

※ 生徒の行事に係わる学校教育自己診断の肯定回答率、2020 年度全て 80%以上をめざす。(H28 : 68%・H29 : 73%)

※ 部活動への1年次当初の加入率、2020 年度 80%以上をめざす。(H28 : 70%・H29 : 63%)

※ 保護者への連絡及び意思疎通の項目の肯定回答率、95%以上を維持する。(H28 : 95%・H29 : 96%)

5. 教職員の “生徒と向き合う力”の強化

(1) 教職員がチームで生徒と向き合う

- ア 教職員の力を伸ばすための組織的・計画的なプランの策定及び実施
イ 職員研修の充実
ウ 教職員の働き方改革

※ 教職員向け学校教育自己診断において全ての項目で肯定回答率 90%以上をめざす。(H28 : 4/7 項目・H29 : 4/9 項目)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見																											
<p>【生徒アンケート結果より】</p> <p>① 質問全 13 項目中、10 の項目において前年度より肯定的回答のポイントを伸ばした。 H29 年度、8/11 項目 (H29 年よりの 13 項目中、新項目 2 つを除いた数字) H28 年度、7/11 項目でポイントを伸ばしている点より、計画が概ね順調に進んでいると言える。</p> <p>② 特に 6 ポイント以上アップした『進路に係る情報提供』『いじめ対応』『悩みを相談できる先生がいる』と『命の大切さや社会のルールを学ぶ機会』の 4 つの項目については、学校のカウンセリング能力向上が向え、生徒に育みたい力である“自立する力”の涵養に向けて大きな励みとなった。</p> <p>③ ポイントを落とした 3 項目の中で、『学校に行くのが楽しい』『まじめな態度で授業を受けている』は、学校教育の根幹にかかわるところで、教職員一丸となって真摯に取り組んでいかなければならない。『他の先生が授業見学に来る』の項目も数字を落としているが、バディシステム授業見学数が、3 学期に増える傾向にある。(昨年ここから大きく数字を伸ばした。)</p> <p>【保護者アンケート結果より】</p> <p>① 今年度、アンケート配布にトラブルがあったにも係らず、昨年を上回る 77% (H28 : 65%・H29 : 71%) の回収率があったことに感謝する。これは保護者向けアンケート中の『学校が家庭連絡や意思疎通をきめ細かく行っている』の肯定回答 95%からも伺うことができ、本校が保護者と連携を密にした学校運営を行っていると言える。</p> <p>② 質問全 9 項目中、3 項目においてポイントを伸ばしたが、6 項目でダウンした。 H29 年度、7/8 項目 (H29 年度より 9 項目中、新項目 1 つを除いた数字) H28 年度、8/8 項目と、順調にポイントを伸ばしてきていただけに、今後の課題となった。</p> <p>③ ポイント落とした中で、『授業見学、懇談会、説明会への参加』『体育祭・文化祭等への参加』2 項目については、大阪北部地震の影響があり、大変申し訳なく感じている。しかし、制限のある中での学校行事であるが、生徒向けアンケート結果の満足度が高い点に救われる。</p> <p>④ ③で上げた 2 つ以外に、ダウンした 4 項目の中で『生徒指導への共感』を除く 3 項目は 1 ポイント以下であり、地道に努力を重ねていく必要がある。生徒指導に関する項目に関しては、今後、検証していかなければならない。</p> <p>⑤ ポイントを伸ばした項目は、『授業の分かりやすさ』(“確かな学力”)、『いじめ対応』『豊かな心、人権感覚の涵養』(“自律する力”)、については、生徒と同様、カウンセリング機能の向上が向える。</p> <p>【教職員アンケート結果より】</p> <p>① 学校協議会で指摘のあった回収率 100%をめざしたが 83%に留まった。(H29 : 81%、H28 : 73%)</p> <p>② 質問全 9 項目中、3 項目がポイントアップ、5 項目がダウン、1 項目が変化なしとなった。</p> <p>③ ポイントを伸ばした 3 項目の内、『いじめ対応』で 8 ポイント、『教育相談体制の整備』4 ポイントで、大きく数字を伸ばすことができた。生徒からの相談により丁寧に対応していけるような、より充実した態勢づくりと運用を図りたい。</p> <p>④ 昨年 6 ポイントを伸ばした『教員間の話し合い』が 4 ポイントダウンした。教職員間の風通しを良くし、新指導要領や高大接続等の様々な課題解決に向けた情報収集や情報提供、教科・分掌を越えた話し合いの場を設け、教職員一丸となった学校運営を図りたい。</p> <p>⑤ ④以外で、ポイントを落とした項目の中、学校行事に関</p>	<p>学校運営協議会からの意見</p> <p>◆学校運営協議会委員：委嘱委員（敬称略）</p> <table border="1" data-bbox="829 400 1591 804"> <tr> <td>会長</td> <td>山本 稔</td> <td>武庫川女子大学</td> </tr> <tr> <td>副会長</td> <td>谷 郁夫</td> <td>地域代表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鷺塚 誠</td> <td>茨木市立西陵中学校 校長</td> </tr> <tr> <td></td> <td>山田 咲生子</td> <td>代々木ゼミナール大阪南校</td> </tr> <tr> <td></td> <td>田原 正也</td> <td>地域代表</td> </tr> <tr> <td></td> <td>山中 和代</td> <td>保護者代表</td> </tr> <tr> <td colspan="3">校内委員</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">校長、教頭、事務長、首席 2 名 (生活指導主事兼務) ※記録：首席</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2">進路指導主事、1 年学年主任、2 年学年主任、3 年学年主任</td> </tr> </table> <p>◆平成 30 年度 大阪府立茨木西高等学校 第 1 回 学校運営協議会（記録概要） 日時：平成 30 年 7 月 18 日（茨木西高校校長室 於）</p> <p>開会に先立ち、配布資料の説明</p> <p>1) 学校長挨拶 今年度から本会議の名称が学校運営協議会となった。役割として、 ①校長に対して意見を述べる ②「基本的な方針」の承認 ③職員の任用に関して意見を述べる</p> <p>2) 協議会委員並びに事務局員の自己紹介</p> <p>3) 近況報告（教頭） ・大阪北部地震の影響についてと今後の予定 ・トイレの改修について</p> <p>4) 協議 ①平成 30 年度学校経営計画について ・中期的目標として「確かな学力」「社会を切り拓く力」「自律する力」「つながる力」「生徒と向き合う力」を掲げる。 ・生徒会主導の遅刻の取り組みとは ⇒これから計画していくが、生徒が自ら遅刻を減らすことができるような取り組みを考えている。例えば、現在も実施しているが、連続して遅刻をしなかった生徒にメリットがあるようなことをイメージしている。 ・アクティブラーニングの取り組みについて ⇒教職員の半数以上が実施している。「マイスター制度」を活用して、多くの教員がアクティブラーニングを授業の中に取り入れられるようにしたい。 ・交通安全指導について ⇒定期的に登校時や放課後に自転車通学の指導を行っている。本校の教員だけでなく、地域住民の方々や警察、市役所、PTAと連携して取り組んでいる。 ・下校時の通学マナーが気になる ⇒反省している。指導を抜き打ちで行う、実施回数を考慮するなどの工夫をして、引き続き指導していきたい。 ・自転車の事故について ⇒現在は全員が自転車保険に加入している。事故が起きてしまったら、まず警察に連絡し、生活指導部に事情を伝えるように指導している。 ・英語の 4 技能について ⇒8 月の教育課程説明会を踏まえて本格的に校内で取り組んでいくつもりである。必要に応じて保護者向け講演会も検討。 ・キャリアサポートについて ⇒オープンキャンパスに行くように声かけをしている。今年度より進路指導部から情報発信を強化し、全校集会や家庭への郵送物にも進路選択を助けとなるように情報を充実させたい。</p> <p>②平成 31 年度使用教科書について ・採択理由と教科書の実物を委員で確認した。</p> <p>③その他 ・各委員との情報提供と意見交換を実施した。</p> <p>5) 連絡・今後の日程について</p> <p>◆平成 30 年度 大阪府立茨木西高等学校 第 2 回 学校運営協議会（記録概要） 日時 平成 30 年 10 月 24 日（水）（茨木西高校校長室 於）</p> <p>開会に先立ち、配布資料の説明</p> <p>1) 学校長挨拶</p> <p>2) 近況報告（教頭） ・大阪北部地震の影響についてと今後の予定</p> <p>3) 協議 ①授業見学を振り返って ・渡り廊下で授業を実施していた。工夫が見られた。 ・LAN教室の整備、少し遅いくらい。 ・プロジェクターでの授業が定着している。 ・情報の授業でエクセルを学べることは、必ず社会で役にたつ。 ・英語の授業で生徒を指名するときにカードが使われていた。工夫されている。 ・校内の施設に制限がある中で、生徒もがんばっている。 ・英語の授業でポジティブな声掛けが見られた。 ・校舎の外からみるとそうでもないが、中から見ると地震の影響が大きい。 ・生徒の声が小さく感じた。 ・渡り廊下でも楽しそうに美術の授業をしていた。 ・音楽の授業の雰囲気良かった。</p> <p>②平成 30 年度「学校経営計画」進捗状況について ・自習室の活用増と質問コーナー盛況についての説明 ・大阪国際大学での勉強合宿について</p>	会長	山本 稔	武庫川女子大学	副会長	谷 郁夫	地域代表		鷺塚 誠	茨木市立西陵中学校 校長		山田 咲生子	代々木ゼミナール大阪南校		田原 正也	地域代表		山中 和代	保護者代表	校内委員				校長、教頭、事務長、首席 2 名 (生活指導主事兼務) ※記録：首席			進路指導主事、1 年学年主任、2 年学年主任、3 年学年主任	
会長	山本 稔	武庫川女子大学																										
副会長	谷 郁夫	地域代表																										
	鷺塚 誠	茨木市立西陵中学校 校長																										
	山田 咲生子	代々木ゼミナール大阪南校																										
	田原 正也	地域代表																										
	山中 和代	保護者代表																										
校内委員																												
	校長、教頭、事務長、首席 2 名 (生活指導主事兼務) ※記録：首席																											
	進路指導主事、1 年学年主任、2 年学年主任、3 年学年主任																											

しては、【保護者のアンケート結果】③と同様、生徒会の状況に応じた対応に感謝している。その他、『カウンセリングマインドを取り入れた生活指導』『きめ細かい進路指導』については、各分掌での総括を受け改善を図らなければならない。

- ⑥ 特に、問題視すべき項目は、『能動的な学習への取り組み』で、昨年の88%から18ポイント落としており、PDCAサイクルによる改善が必要である。

- ・オーストラリア語学研修について ⇒ 肯定回答率100%
- ・アクティブラーニングの研修について ⇒ 実践例の紹介など
- ・展開教室とは ⇒ 少人数展開の授業で使用
- ・大阪北部地震の際の避難所解説はどのような様子だったのか
⇒ 10名程度の利用者があったようだ。基本的には茨木市役所で対応。避難所解説マニュアルを昨年度作成した。
- ・メールマガジンの活用方法について
⇒ 地震の際は安否確認に苦労した。学校の電話回線に限りがある。HPから安否確認ができるシステムを教員のメールリストを構築した。

③ その他

- ・各委員との情報提供と意見交換を実施した。
(首席兼生活指導部長) 登下校の通学マナーについて
(首席) 地震の影響と渉外広報について
(1年学年主任) ノースマホデーについて
(2年学年主任) 修学旅行について
(3年学年主任) 3年生の進路について
- ・現在半数近くの生徒が進路を決めている。

4) 連絡・今後の日程について

◆平成30年度 大阪府立茨木西高等学校 第3回 学校運営協議会 (記録概要)
日時 平成30年10月24日(水) (茨木西高校校長室 於)

開会に先立ち、配布資料の説明

1) 学校長挨拶

2) 学校の近況について(教頭)

- ・特別教室棟の工事についてのスケジュール
- ・授業で使うタブレット教材について

3) 協議

① 平成30年度「学校教育自己診断」集計結果について

「教職員版」

- 項目①(学校の教育活動について、教職員間で日常的に話し合っている)
⇒ 否定的な意見があった。来年度は若手中心に話し合える場を。

「生徒版」

項目①(学校に行くのが楽しい)

- ⇒ 生徒と保護者に差がある。(保護者は楽しいと感じている)

項目⑫(文化祭は楽しく行えるように工夫されている)

- ⇒ 地震の影響で校舎の使用に制限があり、実施形態も例年と異なったが満足度が高かった。

② 平成30年度「学校経営計画及び学校評価」達成状況(案)について

③ 平成31年度「学校経営計画及び学校評価(案)」について

(主な変更点)

- ・グローバル人材の育成を目指し、GTECの校内実施など、英語四技能の習得強化
- ・道徳教育の推進
- ・防犯を強化
- ・新学習指導要領への対応
- ・QCサークルの継続実施と新企画の展開(若手塾を計画)

(意見交換)

- ・「グローバル人材の育成」について新たな教員の配置も計画しているか。
⇒ 今のところその予定はなく、現在の教員で工夫して対応
- ・地震や台風の被害を踏まえて、目標の一つとして「防災」を強調してはどうか。
- ・海外修学旅行について
⇒ 来年度はベトナムに行く予定
- ・この1年間、茨木西高校をみて、非常に落ち着いたいい学校であるという印象を受けた。
- ・評価指標に数字ばかりが並ぶのはいかなものか。教育においては数値で成果が現れないことも大いにありえる。(数値での評価がないといけない事情は理解できるが)
- ・学校目標の項目はもう少し減らしてもよいのではないか。
- ・GTECについて、writingの試験でタイピングが必要な場合があるが、タイピングの練習はしているか。
⇒ 来年度本校で実施を予定している試験はCBTではないので、今のその必要はない。
⇒ GTECだけでなく、社会に出たらキーボードでのタイピングはとても大切である。スマホだけの操作に慣れてしまっは危険。その分野の教育も高校では重要である。
- ・学校教育自己診断について、生徒がどこまで素直に解答できているのか。
- ・退学者はどれくらい存在するのか。
⇒ 退学者はあまりいないが、進路変更による転学者は一定数存在する。
- ・防犯について、現在大阪でも大麻などによる薬物犯罪が増えており、身近な場所で手に入る状況である。
⇒ 生活指導部の会議でも問題として挙がっている。中学から高校になると行動範囲が広がり、薬物のリスクが高まってしまう。警察官の講演や啓発DVDなどで、薬物防止に取り組んでいる。
- ・学校教育自己診断の統計について、いじめはそもそもあるか分からないので答えにくい。生徒指導方針も、保護者には見えにくい。
⇒ 生徒心得をHPや生徒手帳、IBANISHIガイドで公開している。
年間5回家庭に送付している「生指だより」でも引き続き各家庭に周知していく。

(本日の意見交換を踏まえて、追記・変更を加え)

「学校経営計画及び学校評価(案)」について委員で承認

③ その他

- ・各委員との情報提供と意見交換を実施した。
(首席) 地域との関わりについて
(進路指導部長) 今年度の3年生の進路状況について
(3年学年主任) もうすぐ卒業する3年生を振り返って
(2年学年主任) 今後の進路指導について
(1年学年主任) 確かな学力とルールについて

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力	<p>(1) 生徒の学習支援 ア・授業規律の一層の徹底 イ・学習支援体制の構築 ・教育産業の有効利用 ・勉強合宿の実施 ウ・自学自習の環境整備及び運用</p> <p>(2) グローバル社会への対応 ア・英語教育の一層の推進</p> <p>(3) 授業改善 ア・PDCA サイクルによる授業改善 ・教職員が切磋琢磨できる環境づくり イ・アクティブ・ラーニング (AL) の推進 ・ICT 活用推進</p>	<p>(1) ア・授業規律の徹底と、聞かせる態勢づくり、ほめる授業の実施 イ・実力テストの結果より、「隙間学習」等、ボトムアップに取り組む ・教育産業を利用した講習の充実 ・勉強合宿の実施 ウ・自習室及び質問コーナー活用推進</p> <p>(2) ア・英検へのチャレンジを推奨 ・英語四技能育成のための取組み</p> <p>(3) ア・授業アンケートの振り返りによる改善 ・パディシステムによる活発な授業見学 ・授業マイスターによる交流の活性化 イ・AL 研修及び教授法の紹介 ・ICT 研修及び利用法の紹介</p>	<p>(1) ア・授業規律を守る生徒の割合 90%以上 新規 イ・「隙間学習」への参加生徒数 新規 ・教育産業を利用した講習への参加者の増加 (H29:135名) ・勉強合宿参加者の肯定回答率 80% 新規 ウ・自学コーナーの活用者数の増加 新規</p> <p>(2) ア・英検受験者数 180 名以上を維持 ・カリキュラムの変更等による英語に係る生徒満足度アップ 新規</p> <p>(3) ア・授業の振り返りシート提出 (年 2 回) と授業改善に係わる面談回数の増加 ・パディシステム利用数 120 回以上を維持 ・授業マイスター (前後期) の指名と研究授業の実施 イ・AL に係わる研修及びニュースの配信 ・AL 取り組む教職員 90%以上 新規 ・教職員の ICT 利用率 80% 以上 (H29:77%)</p>	<p>(1) ア・授業規律を守る生徒の割合 88% (△) イ・3 年全クラス SHR で「速読演習」を実施 (○) ・講習参加者 161 名 (◎) ・勉強合宿参加者の肯定回答 90% (◎) ウ・自学コーナー (自習室、質問コーナー) 利用者が相対的に増加 (○)</p> <p>(2) ア・英検受験者数 161 名 (△) ・来年度、教育産業を利用した 4 技能習得のための取組み案確定したが、満足度の調査は行っていない (△)</p> <p>(3) ア・振り返りシート回収済、先生方との面談を複数回 (○) ・パディシステム利用、137 回 (○) ・マイスター指名及びパディシステムを活用した研究授業実施済 (○) イ・QC サークルのコンテンツとして、また職員会議等で配信した (○) ・AL 取り組む教職員 70% (△) ・教職員の ICT 利用率 79% (△)</p>
社会力の拓く力	<p>(1) キャリアサポート ア・進路に係る早期の意識づけ ・希望進路の進路実現 イ・キャリア意識の醸成</p>	<p>(1) ア・保護者との進路スケジュール等の共有 ・進路実現にむけたガイダンス力の向上 イ・高大連携の強化及び見直し ・フィールドワーク等を通じたキャリア意識の醸成</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断 (保護者)「適切な進路指導」肯定回答率 75%以上 新規 ・学校教育自己診断 (生徒)「進路情報の提供」及び「進路を考える機会」の項目の肯定回答率 70% 以上 (H29:65%・64%) イ・高大連携に係わるアンケート ・フィールドワークに係わるアンケート</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「適切な進路指導」肯定回答 69.3% (△) ・学校教育自己診断の肯定回答率「進路情報の提供」75% (◎) 「進路を考える機会」71% (○) イ・『進路決定に役立った』等、概ね良好な回答を得た (○) ・『進路を考えるよい機会になった』等、概ね良好な回答を得た (○)</p>
自律する力	<p>(1) 自律を促す教育活動 ア・基本的な生活習慣の確立 ・規範意識の向上</p> <p>(2) 安全安心な学校づくり ア・人権感覚の醸成 イ・教育相談活動の活性化 ウ・交通安全指導の徹底 ・防災教育の強化</p>	<p>(1) ア・遅刻防止指導の徹底 ・生徒会主働の規範意識向上の企画の実施</p> <p>(2) ア・計画的な人権教育の推進 イ・教育相談ニュース等による、窓口広報と活動の活性化 ウ・入学時の交通安全指導 ・保護者、地域と連携した通学安全指導の継続 ・防災訓練を通じた共助意識の涵養</p>	<p>(1) ア・遅刻者数 5%ダウン (H29:4062) ・校内外の美化を中心とした取り組みに関する、保護者等の意見 新規</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断 (生徒)「命の大切さ、社会のルール」、(保護者)「豊かな心、人権感覚」に係るアンケートの肯定回答率アップ (H29:62%・74%) イ・「相談した先生の存在」の肯定回答率アップ (H29:38%) ウ・登下校時の事故数の減少 (H29:23件) ・通学安全指導の年 6 回以上実施 ・地域協議会等での意見聴取 新規</p>	<p>(1) ア・12 月末段階、総遅刻者数 3792 名 (○) ・地域の清掃活動に参加。また北海道地震への募金活動をおこない、同世代の高校生とつながることができた (◎)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断の肯定回答率 (生徒)「命の大切さ、社会のルール」69% (○) (保護者)「豊かな心、人権感覚」74% (○) <※H29:73.6%> イ・「相談した先生の存在」肯定回答率 45% (○) ウ★この項目の、継続した活動を認められ『内閣総理大臣表彰』を受賞した。 ・登下校時の事故数 22 件 (○) ・地域連携通学安全指導 5 回、学校独自の登下校安全指導 5 回実施 (○) ・意見聴取未 (△)</p>

府立茨木西高等学校

つながる力	<p>(1)HR 活動、生徒会、部活動の活性化 ア・HR 活動の活性化 ・生徒会活動の活性化 ・部活動の活性化 イ・国際交流事業の推進 (2)小中及び地域との連携強化 ア・中高連携の強化 ・地域連携の強化 イ・同窓会活動の活性化 ・外部の教育に係わる人材発掘 (3)保護者との連携強化 ア・きめ細かい家庭との意思相通 イ・PTA 活動のより一層の活性化</p>	<p>(1) ア・計画的で目的を共有したロングホームルーム（LHR）の実施 ・生徒主体の生徒会活動 ・部活動参加生徒数の増加 イ・台湾修学旅行の成功 ・オーストラリア語学研修の成功 ・海外高校生訪日の受け入れ (2) ア・連携3校との連携協議会の開催と連携強化 ・地域交流協議会の開催と地域行事への参加 イ・同窓会による同窓会人材バンクの設立及び現役支援 (3) ア・メール配信・封書連絡及び担任・顧問との連絡を密に取る。 イ・PTA 活動のより一層の活性化</p>	<p>(1) ア・LHR 計画を全学で共有する。 ・生徒会行事における満足度 75%以上（H29：72%） ・1年生の部活動加入率 70%以上（H29：63%） イ・台湾修学旅行の満足度 80%以上 ・オーストラリア語学研修に係る肯定回答率 90%以上 ・海外高校生の受入に係る生徒の感想 (2) ア・連携3校との連絡会及び出前授業、研修会等の交流の実施 ・穂積及び春日丘小学校区の行事へのボランティア参加に係る生徒の感想 イ・同窓会人材バンクの募集開始[新規] ・現役生徒への同窓会による支援開始 (3) ア・保護者への情報伝達に係わる肯定回答率 95%以上を維持（H29：96%） イ・PTA 実行委員会での回答</p>	<p>(1) ア・LHR 計画共有済（○） ・体育祭、文化祭等の満足度 77%（○） ・1年生の部活動加入率 64%（△） ※H30/4/26 報告 イ・台湾修学旅行満足 84.1%（○） ・オーストラリア語学研修肯定回答 100%（◎） ・台湾高校生受入の際、「海外への興味が高まった」等、肯定意見多数（○） (2) ア・連絡会は実施できなかった（△） 連携外の中学へ出前授業は実施（○） ・参加した生徒たちから、「地元とのつながりを強く感じることができた」等良好な感想を得た（○） イ・同窓会人材バンクが承認され来年度よりの募集開始（○） ・同窓会とコラボした、外用ベンチ・机等を作成（○） (3) ア・保護者への情報伝達に係わる肯定回答 95%（○） イ・震災の関係で文化祭への協力はできなかったが、他校 PTA との交流等、概ね良好な意見を得た（○）</p>
生徒と向き合う力	<p>(1)チームで生徒と向き合う ア・組織的、計画的なプランの策定及び実施 ・経験の浅い先生方及びミドルリーダーの育成 イ・職員研修の充実 ウ・教職員の働き方改革</p>	<p>(1) ア・面談等を通じた適材適所の人事配置 ・QC サークルの活動の活性化 イ・タイムリーで計画的な研修実施 ウ・校務の精査とチーム力の向上</p>	<p>(1) ア・教職員向け学校教育自己診断の結果 ・QC サークル及び面談の複数回実施 イ・クリティカルな研修の実施 ウ・ストレスチェック数値の良化</p>	<p>(1) ア・9 項目中 5 項目で数値がダウン（△） ・先生方との面談の複数回実施（○） イ・聴力にハンデがある生徒への対応の研修、心肺蘇生・AED・エビペン等の救急法研修、「めぐみ」の視聴等を実施（○） ウ・ストレスチェックによる総合健康リスク 92<H29:97>に良化。比較的良好との判定を得た（◎）</p>